

日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報

JASCG

第 47 号

巻頭言

学校に教育相談は 定着したのか？

少し前に「学校教育相談は定着したのか」というテーマの原稿を依頼されました。そこで、これを機会にあれこれと考えたり、知り合いの様々な校種の先生 20 人ほどに尋ねてみたりしました。結論は、「そうとも言えるし、そうでないとも言える」です。なんだか、心許ないような結論ですが、難しい問題であると再認識しました。

少し解説をします。私の実感としましては、20 年前と比べると、教育相談やカウンセリングという言葉は定着し、スクールカウンセラーの配置も進んできており、さらに関連して、子どもが心療内科などにかかることも抵抗が少なくなってきました。このような状況から、この 20 年間で学校教育相談は定着した、という印象をもっています。過半数の方は私と同じような意見でした。しかし、残りの方は、反対のご意見でした。理由は様々で、「仕事が増えて忙しくなったから」「研修の機会が減ったから」などのほかに、「スクールカウンセラーに任せてしまって自ら教育相談をする意識が薄れた」というご意見もありました。

この違いは、学校教育相談をどのように定義するかによっていると思われれます。例えば、高校の

- 1 ◎ 巻頭言
- 2 ◎ 第 27 回総会研究大会ご案内
- 3 ◎ 認定委員会 / 学会誌作成委員会 / 研修委員会
- 4 ◎ 調査研究委員会 / スクールカウンセリング推進協議会
- 5 ◎ トピックス 子どもの理解
- 6 ◎ 〈取材レポート〉学級づくり② - 子ども理解 -
- 7 ◎ 【埼玉県支部】 - 支部活動報告 - / 研修委員会情報
- 7 ◎ 研修委員会情報「第 26 回中央研修会」
- 8 ◎ 会長コーナー / 事務局より / 編集後記



学会誌作成委員長 長坂 正文

先生方は「教育相談係の行う教育相談」と捉えていらっしゃる事が多く、小学校の先生方は「担任が行う教育相談」と捉えていらっしゃる傾向があります。

いずれにしても、学校教育相談が校種を問わず重要であることは言うまでもなく、担任が行う教育相談であれ、相談係が行う教育相談であれ、真の意味で、学校教育相談を定着させることが大切です。ここに、本学会が存在する意味もあると思います。そこで、本学会として何が必要かと言いますと、若い会員を育てること、研修の機会をより多くもつこと、実践に裏打ちされた研究を発表し蓄積することなどではないかと思います。微力ながら、私もお役に立てればと思います。

第 27 回総会・研究大会 (大阪大会)

へのお誘い

〈大会テーマ：学校教育相談の充実・深化を図る

～これまでの知見に学び活かす～〉

時下学会員の皆様におかれましては、お元気で日々学校教育相談の実践や研究に勤しまれておられることと存じます。

さて本学会の第 27 回総会・研究大会 (大阪大会) の開催日も近づいてきました (本年 7 月 31 日～8 月 2 日)。既に 3 月に各会員の皆様に、開催の第 2 号通信をお届けし、ご参加の事前申し込みの受け付けをしております。

申し込み者数も徐々に増えつつありますが、この場をお借りして、再度本大会の趣旨を説明申し上げ、改めて多くの皆様に参加していただきたくお願い申し上げます。

① 開催地と開催時期について

本総会・研究大会が大阪にて開催されるのは平成 12 年の第 12 回大会から 2 回目になります (前大会では兵庫県支部と大阪府支部の合同主管)。開催時期は近年 8 月に入って 1 週間ほど経ってからの時期が多かったのですが、今回は会場確保の都合上少し早まったことをご理解いただきたいと存じます。いずれにしても梅雨明けの猛暑の時期ですが、参加される皆様の心意気や真剣な取り組みによって、暑さが吹き飛ばような実りある大会になるように祈っております。

② 大会テーマについて

本大会のテーマは標題に挙げたとおりです。一見して月並みな内容かもしれませんが、学会や会員各自の皆様の今後の取り組みについて、時代の変化に即した新たな視点を考えていく緊急性が高まっていると思われるからです。

といいますのは、本学会が発足して既に四半世紀を超えており、学会としてそれなりの実績が積み重ねられてきていると確信しています。しかし一方子どもたちを取り巻く学校・地域の変化のみでなく、社会的な事件・事故や自然災害など子どもたちが犠牲になったり被害を受けたりする状況が、この四半世紀の間に増加しています。子ども一人一人を最優先して守ることをモットーとしてきた我が学会の活動つまり日々の学校教育相談が、このような状況に対してもっと有効に対応できる理論や実践の再構築が迫られているのではないかと考えられます。このように様々な事例について、既に多くの会員の皆様が経験し取り組まれてきている

ことと思いますし、マスコミなどにおいても毎年報道されているとおりです。なかでも特に、本年の春先に発生した川崎市内の中学生殺害事件は、今後の学校教育相談を含めた学校教育の在り方について重い課題を突きつけたものと捉えるべきかと思います。

③ 記念講演の講師変更について

先に各会員の皆様に送付した総会・研究大会第 2 次ご案内において、8 月 1 日の総会後の記念講演として、野口克海氏の御講演をお知らせしましたが、5 月になってから野口氏よりご病氣療養中のためご辞退の連絡をいただきました。ご本人の一日も早い全快をお祈りしつつ、残念ではありますがお申し出を受け入れることにしました。

このような事情を本学会会長の嶋崎政男先生にお伝えし、会長としてのご講演をお願いしたところ、ご快諾いただきましたので、記念講演を以下のように変更させていただきます。嶋崎会長先生に深く感謝申しあげるとともに、会員の皆様にもご理解のほどを宜しくお願い申し上げます。

記念講演 (変更)

講師 本学会会長 嶋崎政男先生

演題 学校教育相談学会の「礎」「輝」「志」

～学会の「こしかた、これから」～

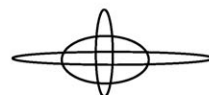
④ 大会実行委員長の交代について

本年度の第 27 回学校教育相談学会総会・研究大会を大阪府支部が主管としてお引き受けしてから、これまでの年次に亘って大会実行委員長 (大阪府支部理事長) としてご尽力され、本大会の企画・実施案についてきめ細かくご指示ご指導をさせていただいてきた梶谷健二先生が本年 2 月に急逝されました。大阪府支部としましては、梶谷先生に深く感謝しご冥福をお祈りするとともに、先生のご遺志を全面的に受け継いで、本大阪大会が成功するように支部全会員が一丸となって努力しています。就きましてまた、大会実行委員長代行として大日方重利大阪府理事が代表を務めさせていただきます。したがって、今後とも会員の皆様からはこれまでと変わらずご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後にもう一度、多数の皆様が大阪大会に参加いただきますようお願いしています。

第 27 回総会・研究大会実行委員長代行

大日方 重利



【認定委員会】

平成 27 年 4 月 30 日現在、学校カウンセラー 770 名のうち、ガイダンスカウンセラーも 424 名となりました。平成 26 年度、初めて行った学校カウンセラー・スーパーバイザー認定審査会で、71 名の方が資格を取得されました。

本年度、学校カウンセラー認定審査会は、21 回目を迎えます。昨年は、48 名の方が合格しました。また、今年は、第 6 回、11 回、16 回に認定された方々が更新年度となります。早めに更新手続きの準備をお願いします。

本年度も 9 月中旬に、ガイダンスカウンセラーの第 5 回推薦審査会を行います。昨年は、ガイダンスカウンセラーに 40 名が認定されました。ガイダンスカウンセラー資格を取得された方には、これから「ガイダンスカウンセラー実践事例集」を送付します。ご活用ください。

昨年度、初めて学校カウンセラー・スーパーバイザーの審査会を行い、71 名の方が認定されました。これからのご活躍を期待します。推薦に際しては、全国の理事長さんに、大変お手数をおかけしました。ありがとうございました。

本年度、11 月 22 日（日）に、東京・市ヶ谷アルカディアで、第 2 回学校カウンセラー・ガイダンスカウンセラー実践研究会を行います。東京理科大学教授八並光俊先生に講義をいただく予定です。詳細は、学校カウンセラー・ガイダンスカウンセラー便り等でお知らせします。

（文責 委員長 清水井一）

学会誌作成委員会

会員の皆様におかれましては、日頃学会誌作成委員会の活動にご理解とご協力を賜りまして有り難うございます。

さて、『学校教育相談研究』第 25 号が皆様のお手元に本会報と同時に届いていることと存じます。今回は、皆様からご投稿いただきました論文を、わずか 3 本しか掲載することができず、とても心苦しく思っております。

年々と、論文のレベルは上がってきていると実感いたしますが、その多くは、調査研究を中心とした研究論文です。最近は、実践事例論文の投稿が減っており、今回も、実践事例論文は全体の三分の一程度です。本学会の会則第 4 条には、「本会は、学校教育相談の実践を通して、研究・研修等を行い、会員相互の資質の

向上と、学校教育相談の普及・充実を図る」とあります。したがって、学会誌作成委員会としましても、もっと、学校教育相談の「実践論文」の充実を図ってまいりたいと思います。

そこで、会員の皆様におかれましては、ぜひ、日頃の学校教育相談の実践（担任、相談係、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、管理職など、どのような立場でも結構です）をまとめていただき、学会誌へ投稿していただきますようお願いいたします。また、学会誌作成委員会としましても「実践事例論文作成ワークショップ」を継続的に実施し、皆様の論文作成のお手伝いをしていきたいと思いますので、ご参加ください。

（文責 委員長 長坂正文）



研修委員会

「大阪大会ワークショップ＆

ラウンドテーブルのご案内」

7 月 31 日（金）に実施予定の大阪大会ワークショップですが、以下の 6 コースを設定しています。今年は現場での実践と多様な生徒支援の学びを組み合わせています。チーム支援、個別相談の基本、システムへの支援、クラス運営、子ども理解、学習支援です。コースの概要に関しましては、別紙記載の各先生方からの講座案内文をご参照下さい。今回も参加して頂く会員の皆様方には、全コースの「資料集」をお届けいたします。

A コース「担任が元気になるチーム援助会議」

～立場やとらえ方が違うメンバーが集まる会議を円滑にするために～

講師 水野 治久 先生（大阪教育大学）梅川 康治 先生（堺市教育健全育成相談担当）

B コース「相談の基本 こちよい関係づくり～演習体験によるふりかえりとおすそわけ～」

講師 藤井 弘 先生（神戸教育相談センター）

古谷 雄作 先生（神戸市立嵯台小学校）

向江 幸洋 先生（兵庫県立武庫荘総合高等学校）

C コース「学級が変わる、学校が変わる！クラス会議のアプローチ」

講師 森重 裕二 先生（滋賀県公立小学校）

D コース「リフレームで子どもを救う！システムズアプローチの実践」

講師 坂本 真佐哉 先生 (神戸松蔭女子学院大学)
E コース「行動科学からみた、気になるこどもの理解
とこども支援のアプローチ」

～愛着障害・発達障害への支援～

講師 米澤 好史 先生 (和歌山大学)
F コース「メタ認知から学習支援を考える」
講師 三宮 真智子 先生 (大阪大学)

また、8月2日(日)には、研修委員会主催の第4
回ラウンドテーブルを予定しています。テーマは「い
じめの予防と初期対応を語り合う」です。研修委員会
では第24回中央研修会で「いじめ問題の解決・予防・
修復・教育」の観点からシンポジウムを実施し、また
昨年のラウンドテーブルでも「いじめ問題への対応の
実践」を小中の先生方に話題提供して頂きました。今
回は春日井敏之先生(立命館大学)に問題提起をして
頂き、小中高の校種別に参加の先生方と語り合う予定
です。

日本学校教育相談学会は、学校教育の現場で教育相
談を実践されている方々の学会です。各自が多様な実
践例をお持ちのはずです。今回はいじめの「予防」と
「初期対応」に重点を置いて討議いたしますが、全国の
会員の皆さまのいじめ問題への具体的対応をたくさん
持ち寄って頂きたいと思ひます。ラウンドテーブルは
参加者が平等に語り合う学びの場です。研修委員がファ
シリテーターとなって進行いたしますが、主体は参加
して頂く会員の先生方です。テーブルでの話しが、自
然にグループ・スーパービジョンの形を呈することも
あります。各地で個別に教育相談を実践されている先
生方が、暑い大阪の地で熱く語り合うことを期待して
おります。是非、ご参加頂きたいと思ひます。

(文責 研修委員長 渡辺 正雄)

調査研究委員会



～いじめ問題をシステムから捉える試み～

いじめ防止対策推進法(平成25年9月28日)が施
行され、いじめ問題へのアカンタビリティとして、都
道府県をはじめ学校など、組織のシステム構築と機能
化が要請されています。取組の中には、児童生徒の活
動を教職員が作成した“シナリオ”により、児童生徒
の一部が参加する活動であった場合、問題解決のアカ
ンタビリティシステムとして構築されず、その体質か
ら新たな教育問題が生み出されることが危惧されます。

枝廣(2014)は、かつて奄美大島でハブから人を守る
ため外来種であるマンガースを救世主と考え島内へ放
し、「問題」を解決しようと取り組んだ結果、マンガ
ースの増加と天然記念物のアマミノクロウサギが絶滅の

危機に瀕するという新たな問題が出てきたことをシス
テムから分析し、「自然や社会のシステムはこのようにさ
まざまなものが複雑につながり合っているのに、その
一部だけを取り出して考えると、期待した効果が生ま
れないばかりか、新たな問題を生み出すこともある。」
と述べています。

組織におけるいじめ問題解決の構造と測定可能な指
標からシステムの循環を分析し、他の教育問題解決へ
の連動を検討しています。

参考文献:2014、ドネラ・H・メドウズ(著) 枝廣淳子(訳) 小田理一郎(解
説)「世界はシステムで動く——いま起きていることの本質をつかむ考え方」英
治出版

(文責 委員長 懸川武史)

一般社団法人

日本スクールカウンセリング推進協議会

第1回理事会議事録

- 1 日時 平成27年4月15日(水) 19:00～20:00
- 2 場所 東京都文京区大塚1丁目4番地15号
図書文化社大会議室

3 出席者 理事数25名 定足数13名

4 議事の経過及び結果

理事25名のうち20名が出席、定款31条1項によ
り理事会の成立が確認された。

続いて、定款30条1項の規定に基づき、理事長國分
康孝は、議長として新井邦二郎理事を指名し、これが
全員一致で承認されたため、新井理事が議長席に着き、
開会が宣せられ、議案の審議に入った。定款32条2
項により、理事長國分康孝と監事根本節子が議事録署
名人となることが、確認された。

第1号議案 日本学校心理士会入会の件

「日本学校心理士会」の入会について事務局長東則孝
から説明があり、定款第6条に従って正会員としての
入会を求めたところ、全員異議なく、この入会が承認
可決された。

第2号議案 役員選定の件

(1) 副理事長の選定について

事務局長東則孝より、定款第21条3項ならびに第
22条2項に従って、副理事長に下記の5名を選定す
ることが提案され、審議を経て承認可決された。

被選者は各々就任を承諾した。

嶋崎 政男(日本学校教育相談学会会長)

石隈 利紀(日本学校心理士会会長)

三村 隆男(日本キャリア教育学会会長)

山口 正二(日本カウンセリング学会理事長)

莊厳 舜哉(一般社団法人日本臨床発達心理士認定
運営機構日本臨床発達心理士会幹事長)

(2) 業務執行理事の選定について

事務局長東則孝より、業務執行理事に定款第21条4
項ならびに定款第22条2項に従い、下記19名を選定

することが提案され、この承認を求めたところ、全員異議なく、承認可決された。

加勇田修士、清水 勇、清水井一、砥柄敬三、岡田守弘、本間啓二、新井邦二郎、池場 望、片野智治、岸 俊彦、木村 周、河野義章、國分久子、中村道子、八並光俊、新井 肇、飯田俊穂、飛田浩昭、東 則孝

第3号議案 事業計画・収支予算の件

(1) 平成27年度事業計画 (2) 収支予算について原案どおり承認可決された。

第4号議案 法人の諸規程の件

①理事会の決議に関する申し合わせ、②ガイダンスカウンセラー資格認定規程、③ガイダンスカウンセラー資格認定規程細則、④ガイダンスカウンセラー資格更新規程の各内規について、全員異議なく原案どおりそれぞれ承認可決された。

第5号議案 各種委員会の委員委嘱の件

(1) 委員の委嘱について

一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会組織案が、原案どおり承認可決された。

(2) 広報委員の選任について、前回理事会で広報委員として推薦された山崎洋史について、副理事長嶋崎政男が、本人の就任承諾の意思を報告し、委員として承認することを議場に求めたところ、全員異議なく承認された。

第6号議案 ガイダンスカウンセラー資格認定について

2015年ガイダンスカウンセラー資格認定試験について

本年のガイダンスカウンセラー資格認定試験の日程および詳細

①ガイダンスカウンセラー資格認定試験Ⅰ

(一般試験)

- ・募集要項の配布開始：6月末～7月初旬
- ・願書受付：9月1日～9月10日
- ・認定試験：10月10日(土) 於：図書文化社 大会議室
- ・筆記試験(多肢選択問題)の項目に新しく「ソーシャルワーク」を加えた
- ・筆記試験(多肢選択問題)の時間を60分から45分に短縮した

②ガイダンスカウンセラー資格認定試験Ⅱ

(経過措置)

- ・構成団体での申請受付：9月1日～9月18日あたり(その後には各団体様で審査)
- ・SC推進協本部事務局への推薦締切：11月1日
- ・今年度より、合格者に対する登録料10,000円の免除措置を廃止する

第7号議案 シンポジウムと強化研修について

議長新井邦二郎が、研修委員長として今年度のシンポジウムと本部強化研修について、下記のような報告を行い、全員異議なく承認された。

①シンポジウム(スクールカウンセリング推進協議

会のHPから参加申し込み)

日時：8月18日(火) 13:00～16:30

会場：大手前大学(兵庫県西宮市) 参加料：1000円

シリーズ：ガイダンスカウンセラーの未来地図Ⅳ

テーマ：新しいスクールカウンセリングの提案

現地実行委員長・シンポジウム司会：伊藤博(大手前大学教授)

講演「いまスクールカウンセリングに

求められるもの」

講師：平居秀一〔文部科学省初等中等教育局

児童生徒課生徒指導室長〕

シボジスト 加勇田修士〔早稲田大学客員教授〕

管理職&専任ガイダンスカウンセラーの経験から

柳沼良太〔岐阜大学准教授〕

道德教育の推進に向けて

米田薫〔大阪国際大学教授〕

指導主事として&中学の実践から

宮下佳子〔東久留米市SSW〕

スクールソーシャルワーカーの立場から

②本部強化研修

日時：11月15日(日) 9:30～17:00

会場：跡見学園女子大学文京キャンパス

趣旨：ガイダンスカウンセラーの能力の凹凸を解消する。そのために各資格団体の強い研修内容を集める。本部強化研修は「ガイダンスカリキュラム」をテーマとするが(資格認定規程細則)、凹凸の解消を確実に実現することが喫緊の課題ととらえて、本年はねらいに据えた。

プログラム案：全7コマのうち

4コマを選択して受講する

1-1 SGEとSSTとQ-U 1-2 キャリア教育

2-1 チーム支援 2-2 特別な支援を要する子への

対応

3-1 プリーフカウンセリング 3-2 授業・生徒指導

4 スクールソーシャルワーク

<閉会> 以上により本日の議事を終了し、議長は今後の協力を要請して閉会を宣した。

(文責 広報委員長 加勇田修士)

トピックス 子どもの理解

- 子どもの自己理解を育てる姿勢・態度 -

教師が子どもを理解しようと努めながらかかわると、子どもの自己理解がすすみ、自己指導力を高めます。したがって、教師は「自分は子どもを理解しようとしているか」という自問自答が求められます。子ども理解を考える際には「何のために理解するのか」「誰のために理解するのか」「何のために理解するのか」「何を理解するのか」「子ども理解の方法は」「子ども理解の活かし方」などがあげられます。

ここでは、子どもの理解における「望ましい教師の

姿勢、態度」に視点を絞って考えます。子どもを理解するためには、子どもの示す様々な事柄を共感できる感性及び受容的な態度が必要です。また、子どもと共に成長しようとする謙虚な、しかも前向きな姿勢を持つようにします。常に子どもから学ぼうとし、子どもの発する様々なサインを見逃さず、行動の内面の理解に努めて適切な支援ができるようにします。

教育（相談、支援）という営みは教師と子どもとの間に信頼関係が成立しなくては考えられません。したがって、教育（相談、支援）では経験と技術も大切ですが、それ以上に大切なことは、教師の子どもに対する姿勢や態度です。教師のとるべき基本的な態度としては、子どもを人間として尊重し、子どものありのままの姿を受け入れることです。そのためには教師自身が内的に自由な解放された安定を保ち、子どもの内的世界に入って自由に動けること、子どもの感情の微妙なニュアンスまで感じ取れるような豊かな感受性をもつことが求められます。換言すれば、教師自身の人間としてのあり方、生き方が教育（相談、支援）の成否にかかわっているのです。教師は自分の個性が教育に反映していることを自覚しながら、自己を常に高め、子どもから学び自己指導力を磨くことが求められます。教師の自己理解が、適切な子ども理解となり、子どもは自己理解を深めます。改めて、教師はカウンセリング・マインドの学習を深め、実践することをお勧めします。

（文責：清瀬市教育相談センター 主任 清水 勇）

〈取材レポート〉

学級づくり②—子どもの理解—

今回も、八島先生にお話を伺いました。先生は若い頃ある視点をもとに、大学ノートに1日2人分の行動観察記録を書き続けたそうです。そうすると、子ども達の全体像が見えてくるそうです。

1日5分から10分かけてノートに記録すると、徐々に訓練されて観察の目が養われ、他の先生にもアドバイス出来るようになって来るそうです。その視点というのは、授業中の様子、学習に対する意欲・達成度、服装、人間関係、学年齢に対して相応な言動か、などです。

それらの観察は、その子個人だけでなくその子が、学級全体からどう受けとめられているか、も情報収集する事が大切だそうです。また、学校内のことだけでなく、家庭状況も把握する事も忘れてはならないと述べています。

そこまでしてから、面接のチャンスを捉え「何が困っ

ているのか、何が嫌なのか、どうしたいのか」を話し合い、決まったことは約束事として日々の生活の中で実践していくことが大切であると結んでいます。これら一連の流れは「予防・開発・治療（問題解決）」という言葉で括ることが出来るそうです。

観察によって困りごとが起きそうだなと感じたときには事前に予告しておくことが肝心で（予防）、今困っていることに対して解決の工夫を図り（開発）、困ってしまっていて不安いっぱいときは安心できる場所と人を用意し落ち着きを待ち、その後問題解決や不適応状態からの回復を図る（治療・問題解決）そうです。

「子ども達のニーズは一人ひとりが違い、能力や環境が違うのであれば適切かつ必要な支援はそれぞれに違う。だから、オーダーメイドの個別支援（指導）が望まれる。そうになると、人数分の指導法が必要になってくる。それには手間ひまがかかると思われるが、個々の児童に個別支援を考える際の手法が他の児童に応用され『オーダーメイドの指導法は、ユニバーサルデザイン』になり得る。」と述べています。

不適応を起こしている子は二次障害の心配がある。その負のスパイラルを断ち切るためには、アセスメントが重要だそうです。前述したように「理解」や「予防」についてお話を頂けましたが、これらの成果を調べて必要があれば指導・支援の方法を修正して改めて対象児に関わることが大切で、そのためのアセスメントが重要だそうです。

個々の児童には違いがあるが、子どもの発達の順序には共通して見られる特徴があります。それが発達課題と言われるものであり、子ども達を支援するには、この発達課題の視点も加味することが必要だそうです。また、その他に対象となる子の不全感あるいは不得手な部分を環境（状況）整備によって補い、達成目標に近づくように支援する「合理的配慮」が重要だとも述べています。「合理的配慮」を判断・実施するには、教師側の柔軟な発想と行動力が問われるそうです。

学校で行われる教育活動は、教科指導と生徒指導に大別されますが、それらは別々のもとして考えるのではなく、「時」と「場」を分け隔てずに学校におけるすべての教育活動が指導・支援のフィールドのだと考えているそうです。

以上のような考えを具現化する手法に、ロールプレイングを取り入れているとのこと。その主な手順は、①個別の教育相談面接で学級全員と面接し、丁寧にアセスメントする。②得られた情報をロールプレイングや個別指導にフィードバックする。というものです。悩みや不安、不全感を抱えている気になる子やその周りの子たちに対し、人間関係の形成と学習を両立

させる場を意図的に設定し、各々が持つ課題を解決していけるように教師が支援していくことが求められると説いています。

先月号、八島先生が学級経営でモットーにする「啐啄同時」の「啐」が文字化けしていました。訂正すると共に、お詫びいたします。

(文責 広報委員 小川正人)

【埼玉県支部】- 支部活動報告 -

1. 第24回支部総会・事例研究発表会・講演会

- ・日時 平成26年6月7日(土) 10:00～16:00
- ・会場 埼玉県民活動総合センター

(1) 研究発表「発達障害の新研究

ー自閉症・LDの治療と予防ー

発表者 さいたま教育相談センター所長 金子 保

(2) 定期総会

(3) 公開講演会「希望をはぐくむ教育」

講師 埼玉大学教授、前さいたま市教育長 桐淵 博

- ・参加人数 会員19名 一般10名

2. 認定・更新に関する研修会・研究会

- ・平成26年7月6日(日) 13:00～15:00

- ・会場 (特) 埼玉カウンセリングセンター研修室

(2) 第8回認定学校カウンセラー埼玉県支部研究会 「認定学校カウンセラーとしての

現状と今後について」

講師 埼玉県支部理事長 柴崎 武宏

- ・参加人数 5名

3. 夏休み電話教育相談

- ・9月8日(月)～9月13日(土) 13:00～21:00・(特)

埼玉カウンセリングセンター事務室

- ・対象 さいたま市内小中学校の

児童生徒、保護者、教師

- ・共催 (特) 埼玉カウンセリングセンター

- ・後援 さいたま市教育委員会

- ・相談担当者 のべ12名 利用者3名

4. 日本学校教育相談学会埼玉県支部特別研修会

- ・11月15日(土) 13:30～16:30

- ・埼玉県民活動総合センター 304 セミナー室

「授業に生かす教育相談」

講師 (1) 共栄大学教育学部教授 和井田 節子

(2) 春日部市立宮川小学校教諭 鈴木 教夫

- ・参加人数 会員16名

5. 日本学校教育相談学会埼玉県支部実技研修会

- ・平成27年2月14日(土) 10:00～16:00

- ・会場 埼玉県民活動総合センター

(1) 研究発表

「遊びを生かした人間関係作りの実践 ーちょっとした遊びが、人間関係をスムーズにし、相談の効果を高めますー」

発表者 少人数指導教室そら主宰 佐藤 敏彦

(2) 小講演「最新データから不登校問題を考える」

講師 東京家政大学教授 相馬 誠一

(3) 研修会「公開スーパーバイザー

スーパーバイザー

- ① 埼玉県立越谷南高等学校教諭 川俣 邦彦

「過敏性腸症候群の生徒への対応

ー周囲との連携とクラス作りー」

- ② さいたま市立城北中学校養護教諭 市川 美奈子

「不登校の連鎖を防ぐために」

スーパーバイザー

東洋大学講師 柴崎 武宏

東京家政大学教授 相馬 誠一

- ・参加人数 会員22名

6. その他

- ・支部日より2回発行

- ・認定学校カウンセラー埼玉県支部推薦委員会

- ・埼玉教育相談研究会、

埼玉交流分析研究会との共催事業

- ・ホームページの更新

U R L <http://www1.tcat.ne.jp/saitama/>

7. 役員

理事長 柴崎武宏 事務局長 相馬誠一

理事 石川雄三、市川美奈子、川俣邦彦、桑原啓一郎、桑原昇、小松原忠治、齋藤光男、佐藤敏彦、清水井一、鈴木和彦、鈴木教夫、鈴木誠、鈴木由美子、高倉恵子、高橋光代、谷口治子、長島明純、原口政明、藤原一夫、別所靖子、矢崎兼久、山下浩、和井田節子

監事 鶴田登、大野弥生子 顧問 金子保、中村孝太郎

(文責 事務局次長 高倉恵子)



研修委員会情報「第26回中央研修会」

研修委員会では、夏の大坂大会の企画と並行して、第26回中央研修会の準備をしています。研修会の日程は、平成28年1月9日(土)～10日(日)、会場は東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターです。研修の構成の基本は例年通りで、シンポジウムにコース別講座になりますが、今年度の研修会では初日に3コース・80分のプレ講座を設ける予定です。今のところプレ講座は「セカンド・ステップ」「タッピング・タッチ」「マインド・マップ」の学習を予定しています。会員の皆さんに、少しでも多く、教育相談・

カウンセリング周辺のアプローチを学んで頂くための企画です。詳細は次号の会報でご紹介させていただきますが、会場の関係で申込みは先着順になります。

シンポジウムは「不登校」問題を設定していますが、不登校を支援する様々な教育的立場から学校現場へ提言して頂く予定です。コース別講座は、認知行動療法の実際、思春期外来からの提言、非行臨床への対応、学校コーチング、多重知能の学び、コラージュ法、論文の書き方などのテーマで講師の先生方と交渉しています。委員会では夏のワークショップや中央研修会での参加者アンケート、本学会各機関からの研修要請、過年度の実施テーマ、委員会からの新しい教育相談の学びの視点などを勘案しながら、研修テーマを検討しています。是非、各支部・各種委員会等を通じて研修希望テーマをお寄せ下さい。

(文責 研修委員長 渡辺 正雄)

会長コーナー (嶋崎政男)

猛吹雪のため、航空機の欠航が発表されました。危機管理「さしすせそ」の「最悪を想う」が役立ちました。まずは「宿舍の確保」。案内所一番乗りで第一関門通過です。

航空便の振替えには遅れをとりました。何処に並べば良いかが分からない。ようやく最後尾を探し当てたのですが、皆さん大きな荷物。聞けば手荷物を預ける人が並ぶ列。慌てて別の列へ。ほっと一息つくたいところだったのですが、この列は幾筋かできた「支流」とのこと。私を含め30人ほどがバツが悪そうに「本流」の最後尾に付きました。

遅々とした流れに乗って耐えること3時間。順番がきました。受付の方は疲労の極致だったと思われましたが、笑顔の対応でした。

搭乗時間は4時間の遅れ。それでも出迎えは笑顔での挨拶。マニュアル厳守なのでしょうが、危機管理の鉄則からはいかがなものか。飲食店での従業員一斉挨拶同様の違和感を感じました。

学校教育相談に関しても気になることがあります。例えば「傾聴」。「聴」の字のつくりは「素直な心」です。かつて「ふんふんと頷くだけ」と揶揄されたように、形式的な相槌は時に耳障りに聞こえます。

スキル(技)の重要性は否定されるものではありませんが、やはり、マインド(心)あつてのことでしょう。笑顔より凛とした姿勢が求められる時はあるのです。

事務局より

＜梶谷健二先生のご遺志をついで＞

昨年の群馬大会から今年の夏の大阪大会にバトンが渡ろうとする矢先に、大阪府支部理事長の梶谷健二先生のご逝去があり、今年の大阪府支部の皆様にとっては、深い悲しみを乗り越えての大会開催となります。

今年は役員改選の年でもあります。役員等推薦委員会の皆様のご尽力により、8月の支部代表者会、総会という段取りで、新役員の承認に向けた手続きがあり、事務局として下支えしてまいります。総会・研究大会が会員の皆様にとっても実りある大会になるように、つつがなく準備をしていきたいと思っております。

事務局長 砥柄敬三

第47号編集後記

2015年4月、スクールカウンセリング推進協議会は「一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会」として、法人格を持つ団体としてスタートすることになりました。これまで以上に、予防・開発的教育相談の担い手としてのガイダンスカウンセラー(学校カウンセラー)の重責を果たしていきましょう。

(広報委員長 加勇田修士)



日本学校教育相談学会会報

第47号

平成27年6月20日発行

発行 日本学校教育相談学会

会長 嶋崎 政男

編集 日本学校教育相談学会広報委員会

委員長 加勇田 修士

事務局 〒179-0073

東京都練馬区田柄 3-11-28

日本学校教育相談学会事務局

電話/FAX 03-3926-7386

<http://www.jascg.info/>